

学習指導要領の改訂に伴う日本と韓国の中学校英語教科書本文の難易度に関する研究

清永, 克己
九州大学大学院比較社会文化学府 : 博士課程

志水, 俊広
九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門・言語教育学講座

<https://doi.org/10.15017/7153223>

出版情報 : 言語科学. 51, pp.17-29, 2016-03-31. 九州大学大学院言語文化研究院言語研究会
バージョン :
権利関係 :

学習指導要領の改訂に伴う日本と韓国の 中学校英語教科書本文の難易度に関する研究

清永克己¹ 志水俊広²

Abstracts: When the Course of Study is revised in 2020 in Japan, English is going to be taught as a compulsory subject at elementary schools. It is known that in Korea, English has been taught as one of regular curricula in primary education since 1997. An attempt to understand the differences and the current situation on the levels of reading texts was made in order to get much information about English education at elementary schools. Official English textbooks published in Japan and Korea were analyzed by using readability indexes and comparing language materials such as grammatical items. Grammatical items that Japanese junior high school students should study in the 8th grade were included in the first lesson of a 7th grade textbook of 2009 in Korea. In addition, some grammatical items to be treated in high school curriculum in Japan were introduced in a 9th grade textbook of 2013 in Korea. Gunning Fog Index of the 9th grade textbooks in Korea indicated the 9th grade level of the students in the United States. This suggests the same reading level of native language Korean and English as a foreign language.

1. はじめに

韓国では、第6次教育課程（1992-97）（日本の学習指導要領に相当）の最後の年の1997年に小学校3年生から英語教育が必修科目として導入された。しかし、2001年度に第7次教育課程（1997-2007）が小学3、4年で施行されるまで、第6次教育課程の各学校で自由に使える「裁量時間」という枠の中で英語が教えられた。第7次教育課程になり、「裁量活動」と名称が変更されることにより正式に授業の枠が設けられ、3、4年で週1時間、5、6年で週2時間、英語が教科として教えられるようになった。教科書で使用する語彙の改善を中心課題として2007改訂教育課程が施行されたが、李明博政権の英語教育を重視する方針により、わずか2年という短期間で教育課程が改訂された。2009改訂教育課程ではそれぞれの学年で週1時間授業時間が増加し、3、4年は週2時間、5、6年は週3時間となった。3年の授業時間数が増加したことにより、文字指導の導入期を小学4年から3年の2学期へと半年早めた。また、それに伴い、第7次教育課程の小学1年から高校1年までの「国民共通教育課程」の終了を1年間早め、中学3年までとした。そして用語も「共通教育課程」と変更された。また、第7次教育課程で高校2年からの「選択中心教育課程」も高校1年から導入され、「選択教育課程」と用語が変更された。一方日本では、2011年に小学5年から外国語活動として原則として英語が教えられているが、音声面を中心にコミュニケーションを図る楽しさを体験することを目標としている。しかし、文字も使う実質的な英語

¹ 九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程

² 九州大学大学院言語文化研究院

の授業は中学校からである。2020 年度をめどに英語が正式な教科として導入されることになっており、韓国の小学校でのおよそ 20 年間の英語教育を検証することは、日本のこれからの英語教育に大きな参考になると考える。

2. 先行研究と研究課題

韓国の英語教育については、教育制度、教育行政、教科書比較など様々な視点から研究が行われてきた。Fouser and Kiyonaga (2001)は、Microsoft Word 2.0 Help file を使い、韓国の第 7 次教育課程の教科書と日本の 1996 年の教科書を比較した。Yonaha (2011)は韓国の小学校と日本の中学校の英語教科書について文の長さや新出語、英文の数、教科書の構成などを総合的に研究しているが、第 7 次教育課程の小学校の教科書と 2005 年の日本の中学校の教科書をそれぞれ 1 冊ずつ比較したものであり、サンプル数が十分とは言えない。また、第 7 次教育課程という限定的な研究であり、通年的研究ではなかった。Kitao and Tanaka (2009)は、2002 年の日本の中学校の教科書の語彙を中心に研究を行ったが、readability に関して深く研究されていなかった。

本研究では、韓国で 1992 年に始まった第 6 次教育課程から 2009 改訂教育課程までの 4 回に及ぶ教育課程の改訂で編纂された中学校の教科書と、ほぼ時期を同じくして学習指導要領が改訂され、編纂された日本の中学校の教科書を比較し、韓国で 1997 年から始まった小学校の英語教育がどのように中学校の教科書に反映されたのかを readability や文法項目の観点から明らかにしようとした。

3. 研究対象とした教科書

韓国で全国的に広く採用されている教学社と斗山（東亜）出版社の 2 種類の教科書を対象とした。日本は国内で多くの学校で採用されている開隆堂、東京書籍、三省堂の 3 社の教科書を対象とした。小学校で教科としての英語教育がまだ実施されていない日本と基準を揃えるために、韓国の小学校課程で英語教育が行われるようになる 1997 年以前の 1994 年の中学校の教科書を研究対象に加えた。対象とした教科書と発行年を表 1 にまとめた。

表 1. 分析に使用した教科書

日本	Sunshine (SS:開隆堂)、New Horizon (NH:東京書籍)、New Crown (NC:三省堂)
発行年	1992 年、1996 年、2001 年、2005 年、2012 年、2016 年
韓国	KH:教学社、DA:斗山東亜
発行年	1994 年、2002 年、2009 年、2013 年

比較分析には、中学 1 年の教科書の最初の lesson と 3 年の最後の lesson を使った。中学 1 年の最初の lesson では、小学校課程で学習がどこまで進んでいるかを文法事項に関して調べ、3 年の最後の lesson では中学校課程でどこまで学習が進むかを readability と文法事項の両面から比較した。

4. 教科書分析

4. 1. 中学 1 年の最初の lesson による比較

中学 1 年の最初の lesson は、使用単語数が少ない文で構成されているために readability では

十分な比較資料は得られない。そこで、日本と韓国の教科書の文法事項を比較した。日本と韓国の両国はそれぞれが統一した基準の下に編纂された検定教科書が使われているので、日本の教科書では Sunshine を、韓国の教科書では斗山東亜を、それぞれ1つずつ選んで比較した。

表2は、1990年代前半の日本と韓国の中学1年の英語教科書の最初の lesson の本文を示したものである。1994年韓国では、まだ小学校での英語教育が導入されていない。題材は挨拶で、扱われている言語材料も動詞は be 動詞中心であり、英文の数以外に両国で差は見られなかった。日本と韓国の英語教育が同じ段階からスタートしたことが、これらの教科書本文から確認された。

表2. 1992年版の日本の教科書と1994年版の韓国の教科書の最初の lesson の本文

日本 Sunshine 1992	韓国 斗山東亜 1994
Welcome, Emily. I am Kumi. Hello, Kumi. I am Emily. Hello, Mrs. Oka, I am Emily. Oh! You are Emily. Welcome to Japan. Emily, this is my father. How do you do, Mr. Oka? How do you do, Emily? Nice to meet you.	Hi, everyone! I am Kim In-ho Hello, my name is Pak Su-mi. Good morning, Su-mi. Good morning, In-ho. Sumi, this is Mike. Hi, Mike. Hi, Su-mi. This is Jane. Hi, Jane. Glad to meet you. Glad to meet you, too. Good afternoon, class. Good afternoon. Good afternoon, ma'am. How are you today? Fine, thank you. And you? I'm fine, too.

表3は、2000年代初めの日本と韓国の中学1年の英語教科書の最初の lesson の本文を示したものである。日本の教科書は、be 動詞が中心で、is, am, are の3種類が使われ、肯定文だけでなく、疑問文も提示されていた。韓国の教科書は、一般動詞が中心で look, like, join, sound, love, choose の6語が使われていた。文の形では、肯定文や疑問文以外に命令文が扱われていた。日本の教科書で命令文は、NHではUnit 5で、NCではLesson 4で、SSではProgram 4で学習する内容であった。本文の使用総語数は、日本が46語、韓国が50語であり差はなかった。

表3. 2001年版の日本の教科書と2002年版の韓国の教科書の最初の lesson の本文

日本 Sunshine 2001	韓国 斗山東亜 2002
Hi, I am Yuki. Hi, I'm Lisa. Are you a student? Yes, I am. I'm from Canada. Are you from China? No, I'm not. I'm from Japan. Yuki, this is my friend, Li. Hi, Li. Nice to meet you. Hi, Yuki. Nice to meet you too.	Look at the club posters. Wow! Do you like the computer club? Yes, I do. How about you? I like it, but I like the basketball club, too. Me, too. Then let's join that club. Sounds great! Wait! I love the drama club, too. Oh, Sudon! Choose only one club!

表4は、日本の2005年と韓国の2009年の中学1年の英語教科書の最初の lesson の本文を示したものである。日本は、挨拶表現を学習し、1992年版と同様、be 動詞を中心とした内容であった。

前置詞を使った at the same school や形容詞の international や所有格の my が使われているが、ここでは新出単語としての扱いであり、文法事項として学習する単元ではなかった。

一方韓国では、be 動詞の was や You'll で未来時制の will、さらに There are という there 構文が学習内容に含まれていた。Be 動詞の過去時制は、日本の SS、NH、NC すべての教科書で2年の最初の lesson で学習する事項であった。また、未来時制の will も2年の1学期で学習する内容であった。There 構文も日本では中学2年の学習内容であった。韓国の2007改訂教育課程に基づく2009年版教科書の Lesson 1 の題材は、入学したばかりの生徒が中学で初めて経験する生活実態に即した身近な内容であった。学習する文法事項は、日本よりも1年先の学習内容が扱われていた。

表4. 2005年版の日本の教科書と2009年版の韓国の教科書の最初の lesson の本文

日本 Sunshine 2005	韓国 斗山東亜 2009
Hello, I am Yuki. Nice to meet you.	Hey, Jina. How was your first day at school?
Hello, I'm Andy. Nice to meet you too.	Great! Everything is new.
Are you a junior high school student?	I know. There are different teaches for every subject.
Yes, I am.	Yeah, it's exciting.
Are you a student at the same school, Mike?	And, we have a gym at our school.
No, I'm not. I'm an international school student.	You love sports. You're so lucky.
Andy, this is my friend Takeshi.	I know. We can play sports on rainy days.
Hi, Takeshi. I'm Andy.	That's great! How are your classmates?
Hi, Andy.	I don't know many of them yet.
Are you a soccer fan?	But everyone is so nice.
Yes, I am.	You'll make a lot of friends soon.
	Thanks, Daniel. Talk to you later.

表5は、2010年代前半の日本と韓国の中学1年の英語教科書の最初の lesson の本文を示したものである。日本のSSのLesson 1は、アルファベット学習を単元としていた。日本では中学校から英語を学習することが前提であり、以前の教科書では本格的な lesson が始まる前の導入段階で学習していた内容をSSでは一つの lesson として取り上げたと考えられる。Lesson 2 からは従来の題材で、be 動詞を使った英文を学習することになっていた。2005年版では1文中の平均単語数は4.1語で、一番長い文では9語が使われていた。一方、2012年版では1文中の平均単語数は4.1語で変わらなかったが、一番長い文でも6語と短くなっていた。

韓国の教科書の題材は自己紹介であるが、出身国は韓国、カナダ、エジプト、ネパールと様々で内容も日本の教科書よりも深い。動詞ではbe 動詞だけでなく一般動詞も多く使われ、be 動詞と一般動詞の否定文も使用されていた。ここに出てくる一般動詞は、日本の教科書のNH、NC、SSの3社ともちょうど中学校1年の5月から6月に学習する内容であった。

表5. 2012年版の日本の教科書と2013年版の韓国の教科書の最初の lesson の本文

日本 Sunshine 2012	韓国 斗山東亜 2013
Lesson 1 アルファベットになれよう	My name is Junsu. I'm from Korea. I live in a big city.
Lesson 2 Hi, I'm Mike Brown, I am a new student. Oh, you're Mike.	I walk to school. It is not far from my house. I wear a school uniform. I like it.

<p>I'm Yuki, Sayama Yuki. Nice to meet you, Yuki. I'm from Seattle. Are you a baseball fan? Yes, I am. Are you a baseball fan too? No, I'm not. I'm a soccer fan.</p>	<p>Hello, I'm Blaire. I'm from Canada. I live in a small town. I go to school by school bus. I take my lunch box to school. I have lunch with my friends. I like lunch time.</p> <p>My name is Hapu. I'm from Egypt. I live in the desert. I go to school by camel. It's fun. I don't have classes on Fridays. But I have classes on Sundays. I like Fridays.</p> <p>I'm Jala. I'm from Nepal. I live on the mountain. I don't go to school. I learn at home. How? The radio is my teacher!</p>
---	---

日本の教科書の1文中の平均単語数は、1992年が3.3語、2001年が3.5語、2005年と2011年は4.1語であった。韓国の教科書は、1994年が3.2語、2009年は3.8語、2013年は4.3語であった。両国ともに1文中の使用語彙が長くなる傾向が見られた。

4. 2. 中学3年の最後の lesson による比較

中学3年の最後の lesson はまとめの課であり、3年間学習した言語材料を使って小説や物語、論説文など幅広い題材の英文を読んで楽しむことが主眼となっている。教科書比較には、readability を使い、本文の読み易さを測定した。Readability の数値はテキストの語彙数や文の数に強く影響を受けるため、小説など会話文の多い単元では短い文の連続となり比較的易しいという数値結果が現れる。そこで、本比較では、多くの英文を使うことにより客観的な数値となるようにした。

日本では、学習指導要領がだいたい10年を単位として改訂されるため、1992年と1996年、2001年と2005年、2012年と2016年をそれぞれ一つの単位として扱った。韓国でもほぼ同じ時期の1994年、2008年、そして2013年に教育課程が改訂されていたため、それらを1期、2期、3期として比較した。

4. 2. 1. Readability の測定法

Readability の測定には、次の5つを使用した。

- (1) Flesch Reading Ease
- (2) Flesch-Kincaid Grade Level
- (3) Gunning Fog Index
- (4) ARI (Automated Readability Index)
- (5) CLI (Coleman-Liau Index)

(1) から (3) はテキストの語数、文章数、音節数を基本として計算して数値化するもので

ある。それぞれのレベルは、表6の通りである。

表6. Readabilityの数値が示す難易度と学習者の学年のレベル

Flesch Reading Ease	Gunning Fog Index/ Flesch-Kincaid Grade Level	米国の学生の学年
90-100	4	4(年生)
80-90	5	5(年生)
70-80	6	6(年生)
60-70	7 ~ 8	7-8(中学生)
50-60	9 ~10	9-10 (中学-高校生)
30-50	11 ~14	11-14 (高校-大学生)
0-30	15 ~17	15-17 (大学-大学院生)

ARIとCLIは、1960年代後半にコンピュータでの処理を念頭に置いて考え出されたもので、音節数に影響されずに readability を算出する方法で、Flesch-Kincaid Grade Level や Gunning Fog Index と同様にアメリカ合衆国の学生の学年レベルを表している。表7はARI及びCLIの数値とアメリカ合衆国の学生の年齢との関係を示したものである。

表7. ARI 及び CLI 数値と年齢の対応表

ARI/CLI	Grade Level	ARI/CLI	Grade Level
Kindergarten	5-6 yrs. old	7th Grade	12-13 yrs. old
1st Grade	6-7 yrs. old	8th Grade	13-14 yrs. old
2nd Grade	7-8 yrs. old	9th Grade	14-15 yrs. old
3rd Grade	8-9 yrs. old	10th Grade	15-16 yrs. old
4th Grade	9-10 yrs. old	11th Grade	16-17 yrs. old
5th Grade	10-11 yrs. old	12th Grade	17-18 yrs. old
6th Grade	11-12 yrs. old	College	18-22 yrs. old

4. 2. 2. Redabilityによる測定

図1は日本と韓国の中学3年の教科書の最後の lesson の本文を Flesch Reading Ease を使って比較したものである。日本と韓国の教科書は、ともに1期の教科書間で90.0から66.2まで開きがあったが、2期、3期とその差が狭まり、日本のNHを除くとほぼ80前後に収まっている。また、日本のSSと韓国のKHは2期で若干やさしくなる傾向が見られたが、3期を通してあまり大きな変化は見られなかった。韓国のDAは1期で5社の中で一番難しい数値を示していたが、2期と3期で横ばいになりほとんど同じ数値を示し、5社の中の中位程度になっていた。日本のNHは2期で89.4と5社の中で最も易しかったが、3期では5社の中で一番難しい73.0であった。日本の中学3年の教科書はFlesch Reading Ease に関しては3期のNHを除き、80~90の範囲の数値を示しており、アメリカの5年生レベルであることがわかった。

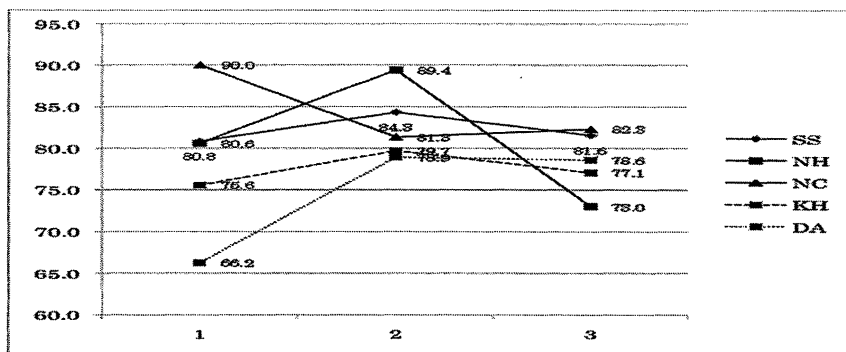


図1. Flesch Reading Ease による比較

4. 2. 3. 学年レベル測定の readability による測定結果

Flesch-Kincaid Grade, Gunning Fog Index, ARI, CLI を使い、それぞれの教科書の readability を比較した。Flesch-Kincaid Grade, Gunning Fog Index, ARI, CLI ではそれぞれ算出方法が異なるが、学年レベルで測定結果が出るためにここでまとめて扱った。

図2は Flesch-Kincaid Grade を使い、米国の学生の学年レベルと比較したものである。日本では NH が、韓国では DA の数値が大きく上下していた。日本の SS と韓国の KH はあまり変化がなかった。韓国の2つの教科書は1期で差が開いていたが、2期、3期と少しずつ狭まっていった。この傾向は日本の教科書にも見られた。さらに、韓国の教科書は日本の教科書よりも1~2学年程度高いレベルの文章だということを示していた。日本の教科書は3期の NH を除き、全体を通してアメリカの小学3年から4年の学生のレベルの文章であり、かなりやさしい文章だということを示していた。

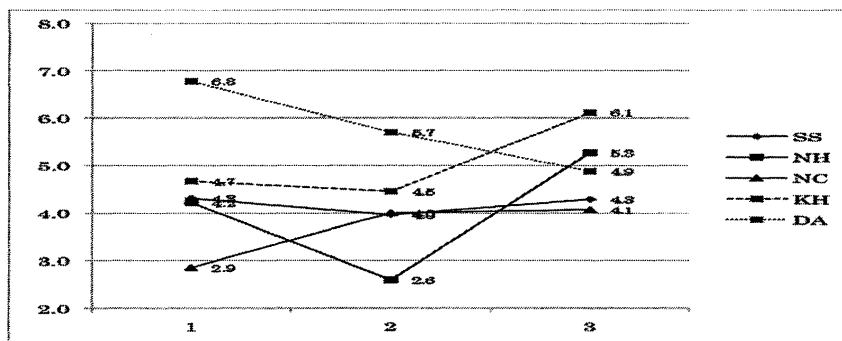


図2. Flesch-Kincaid Grade による比較

図3より Gunning Fog Index の方が Flesch-Kincaid Grade より全体的に2ポイントほど高い数値を示していたが、分布の傾向は Flesch-Kincaid Grade とほとんど同じであった。韓国の DA が1期、2期で米国の8学年レベルに相当し、他の教科書よりも2学年ほど高い数値を示していた。そして、日本と韓国の教科書は DA を除き1期よりも3期の方が、数値が高くなり難しくなる傾向が見られた。

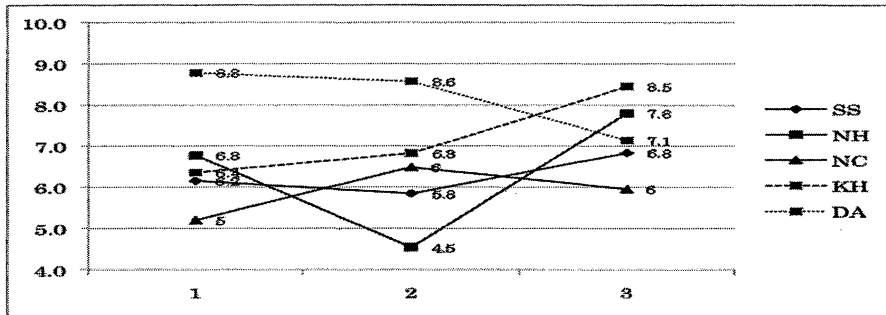


図3. Gunning Fog Indexによる比較

図4は、ARIによる比較をした結果である。韓国のDAは3期ともポイント5.5以上であった。またKHは、2期と3期でポイント5前後の数値を示した。日本の教科書は2期のNCと3期のNHでポイント4に近い数値を示したが、それでも韓国の教科書とはポイント1から2ほど低かった。

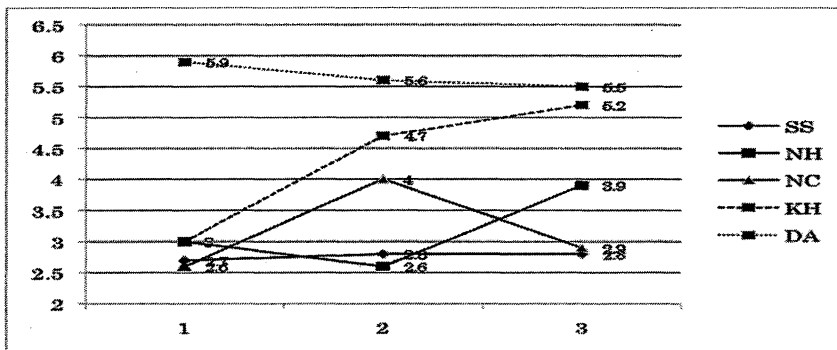


図4. ARI (Automated Readability Index)による比較

図5はCLIによって比較した結果である。韓国のDAはポイント8.7とここでも高い数値を示していた。また日本のSSの数値には、ほとんど変化はなかった。日本の教科書SS、NH、NCと韓国の教科書KHの4社は1期ではそれぞれ数値が近い位置にあった。しかし、2期、3期になると、上下し、数値にばらつきが見られたが、結果として1期より高い数値を示したものが多い。

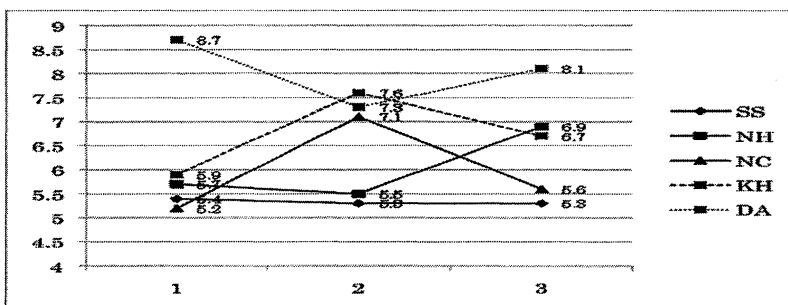


図5 CLI (Coleman-Liau Index)による比較

図3、4、5から日本のSSはあまり数値が上下すること無く、一定のレベルで教科書が作成されていた。1期では韓国のDAを除き、他の4社が近い数値に集まっていた。その後、1期よりも上がる教科書が2社、2期から3期に向かって下がる教科書が2社と教科書で違いが見られた。

4. 2. 4. 1文中の平均単語数と1単語の平均文字数に関する比較

4. 2. 4. 1. 1文中の平均単語数に関する比較

図6は、1文中の平均単語数を調べたものである。日本の教科書では、1期のSSとNHが1文中の平均単語数で9を超えていた。韓国の教科書では、DAがすべての教科書で1文中の平均単語数が11を超えていた。2期でDAが、3期ではKHが13を超え、かなり長い文が使われていた。日本の教科書はどれも10を超えることはなかった。

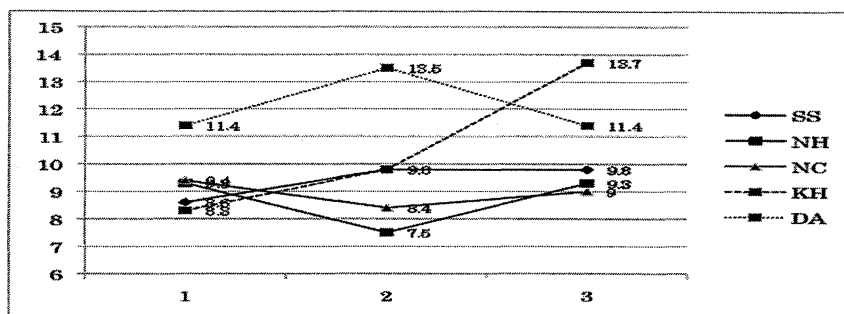


図6. 1文中の平均単語数

4. 2. 4. 2. 1単語の平均文字数に関する比較

図7は1単語に使われた平均文字数を比較したものである。1単語の平均文字数では、日本と韓国ともすべての期すべての教科書で4.1~4.6で5文字を超えることはなく、両国で大きな差が見られなかった。

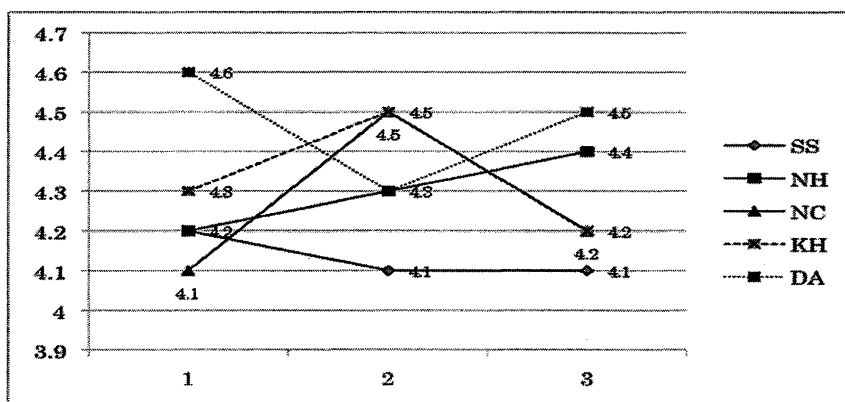


図7. 1単語の平均文字数

4. 2. 5. 文法項目による分析

日本ではNH、韓国ではKHの中学3年の教科書の最後の lesson で扱われる動詞に注目して分析した。動詞は、時制や文型を決定する重要な機能があり、文の要ともいえる語である。比較に際しては、日本の中学校課程で学習する文法事項と高校課程で学習する文法事項とを区別して示した。下線部を施した箇所は日本の中学校課程で学習する項目であり、波線部は日本の中学校課程を越える学習内容である。それぞれの項目は、教科書本文で初出のものだけに印を付けた（表8および表9）。

また、題材によって本文で使われる言語材料が違ってくるが、日本の教材は、アラスカの自然にひかれ、野生の動物の写真を通して生命の大切さを教えてくれた写真家で探検家の星野道夫を題材とした教材であった。韓国は、自分の職業選択について考えさせる題材であり、中学3年生がこの時期に考え、悩むであろうと思われる内容であった。

表8. 日本の中学3年の教科書(New Horizon 2012)の最後の lesson の本文と文法事項

Let's Read 3 An Artist in the Arctic	文法事項
<p>One photograph changed Hoshino Michio's life. He was a university student, and one day he <u>was looking</u> at a book about Alaska. A photographer in the book caught his attention. It was a photograph of a small village <u>surrounded</u> by wilderness. Michio wanted <u>to visit</u> and experience that place for himself. He wrote a letter to the mayor of the village. It took six months, but the mayor wrote back. He invited Michio to Alaska, and Michio's dream came true.</p>	<p>過去進行形 過去分詞 不定詞(名詞的用法)</p>
<p>For one summer, Michio lived among the Inuit people in that Alaskan village. He learned about Inuit food, family life, and culture. He also learned skills for <u>living</u> without city conveniences. For the Inuit, life depends on understanding nature. They have to hunt for meat and gather blueberries for food. Michio saw <u>how humans and animals shared the land</u>. That summer, he became a part of the Alaskan wilderness, too.</p>	<p>動名詞 間接疑問文</p>
<p>After Michio finished university in Japan, he returned to Alaska. For 19 years, he often camped in severe weather <u>to photograph</u> animals in the wild. Michio really used the survival skills <u>the Inuit taught him</u>. Once he wrote about flying to the tundra to photograph caribou. He stayed there alone for one month. As the plane left him, Michio felt lonely in a vast wilderness. But even more, he felt incredibly free.</p>	<p>不定詞(副詞的用法) 接触節</p>
<p>Michio tried to show this feeling of freedom and wonder in his photographs. He took playful photographs of polar bears and majestic photographs Arctic mountains.</p>	
<p>In 1996, he <u>was killed</u> by a bear as he camped alone in Kamchatka. "We only have one life to live," wrote Michio. Though his life was cut short, Michio seemed truly happy as a photographer. He loved his work and he loved Alaska.</p>	<p>受動態</p>
<p>In Michio's photographs, the beauty of Alaska will stay with us forever. That is the magic of photographs. However, the Alaskan wilderness <u>is changing</u> because of global warming. The Arctic glaciers are melting. The polar bears and seals photographed by Michio cannot hunt and catch food. The habitat of the caribou is growing smaller. Even the Inuit are losing their traditional way of life.</p>	<p>現在進行形</p>
<p>The Alaskan wilderness was special to Michio. He used his photographs to share it with us, and to show us the importance of life on the Earth. Michio's own life was changed because of one photograph. Perhaps his photographs will also change someone's life. Maybe Michio's Alaskan photographs will encourage us to think about the beautiful Earth we share.</p>	

表9. 韓国の中学3年の教科書(教学社 2013)の最後の lesson の本文と文法事項

Read & Do For Your Future	文法事項
---------------------------	------

<p><u>Have you thought</u> about your future job? As a middle school student, you may not have a good idea about <u>what you want to be</u>. That's OK, because you still have several years <u>to prepare</u> for your future job. Then, what should you do at this time of your life?</p>	<p>現在完了(経験) 間接疑問文 不定詞(副詞的)</p>
<p>I <u>suggest you should</u> first think about <u>what a good job is</u>. You may want a job <u>that</u> will make you rich and famous. But remember a good job is one <u>that</u> you enjoy <u>doing</u> and makes you happy. So, think about what you like <u>to do</u> most and look for a job like that.</p>	<p>動詞(suggest)、間接疑問、 関係代名詞(主格、目的格) 動名詞、不定詞(名詞的)</p>
<p><u>With so many jobs coming and going in this fast changing world</u>, it <u>wouldn't be</u> a good idea to <u>have your dream job fixed</u> now. Instead it might be better to get some basic skills and knowledge for the future. I suggest you take a look at the following skills and try to develop them.</p>	<p>付帯状況(with)、仮定法 使役動詞、過去分詞</p>
<p>Language skills <u>Whatever job</u> you get in the future, language skills are very important, most of all speaking and writing. <u>You'll be chosen</u> for your speaking and writing ability before you can show your job skills. So <u>the more</u> you practice, <u>the better</u> your speaking and writing will become. With English language skills required in many fields. A basic knowledge of English will also be very helpful for you. You should make the most of your time by improving your language skills while you are in school.</p>	<p>接続詞(whatever) 未来時制での受動態 未来時制の受動態 比較級を使った構文</p>
<p>Problem solving skills Being able to "think outside the box" and solve difficult problem is a necessary life skill. It is <u>not</u> just about how much you know, <u>but</u> how you use <u>what</u> you know. Reading, careful thinking, and exploring the real world can <u>help you improve</u> this ability.</p>	<p>not A but Bの構文 関係詞 what help +目的語+ 原形不定詞</p>
<p>Technology With technology <u>being</u> everywhere, you may be confident in your computer skills. But using technology for fun is very different from using it for work. You must make an effort to learn some basic computer <u>to be better prepared</u> to get a job than someone <u>who</u> just uses technology for games or fun.</p>	<p>現在分詞 不定詞の受け身 関係代名詞(主格)</p>
<p>Social networking As information technology makes many types of communication possible, social networking is becoming more and more important. <u>It is a way for people to build</u> relationships with each other. It helps them to reach their career goals and live better lives. If you want to develop social networking skills, open up your mind and reach out to other people. If you accept others, you will also be accepted by them.</p>	<p>It is for ~ to ...構文</p>
<p>Your school days prepare you for your future. If you are well prepared, your life will be <u>happier</u> and more successful. You have read about four key skills that can help you be better prepared, but it's also important to know <u>how the job maker will change</u> in the future. For example, over the last ten years, the increase in interest in health <u>has created</u> many new jobs such as health planners and exercise trainers. If you develop these skills and keep an eye on the changing job market, you will be ready for a career that will bring you happiness.</p>	<p>比較級 間接疑問文 現在完了(継続)</p>

表8および表9から読み取れるように韓国の教科書の方が日本よりも多くの文法事項を扱っていた。また、韓国の教科書では、関係詞 (what)、動詞 (suggest)、仮定法、付帯状況 (with)、接続詞

(whatever)、使役動詞など日本の中学校の学習内容を越え高校課程で学習する事項が扱われていた。

表 10 は、表 8 と表 9 の日本と韓国の中学英語最後の lesson の readability などを使った比較をまとめたものである。日本の教科書の 1 文の平均語数は 10.5 と、韓国の平均語数 15.8 の 3 分の 2 しかなく、そこで使われる文法事項もそれほど多くはなかった。しかし、readability が示す数値は Flesch Reading Ease で 54.43、Gunning Fog Index で 11.43、CLI で 10.07 と、日本の NH の方が韓国の KH より難しいという結果が出た。韓国でも Gunning Fog Index ではポイント 9.63 と高い数値を示していた。この数値から判断すると日本の NH も韓国の KH もアメリカの中学 3 年と同じレベル、あるいはそれ以上だということになる。日本では中学校の 3 年間で、韓国では小学校 3 年生から英語を学習しているが、両国とも中学 3 年になると学習する題材のレベルに関して母語と外国語の学習年齢が近いということを示していた。

表 10. 日本と韓国の中学 3 年の教科書の最後の lesson に関する比較

	日本	韓国
1 文中の平均単語数	10.5	15.8
1 単語の平均文字数	4.6	4.4
Flesch Reading Ease	54.43	72.66
Flesch-Kincaid Grade	7.85	7.06
Gunning-Fog Index	11.43	9.63
ARI	6.63	7.02
CLI	10.07	7.97

5. まとめ

韓国の中学校の教科書を 1994 年の第 6 次教育課程から現行の 2009 改訂教育課程までを大きく 3 期に分け、readability と文法事項を分析し日本の同時期に使用された教科書と比較した。韓国では小学校課程で英語が教科として教えられているため学習がどこまで進んでいるのかを確かめるために、中学 1 年の最初の lesson を調べた。小学校課程でまだ英語教育が実施されていない 1994 年の教科書では、日本の教科書とほとんど変わらなかった。しかし、韓国では 1 期から 3 期にかけて教育課程が改訂され小学校での英語教育が定着するに従って、日本の高校 2 年で学習する内容までの文法事項が中学 3 年で扱われていた。

Flesch Reading Ease, Flesch-Kincaid Grade Level, Gunning Fog index, ARI, CLI を使った readability の分析からも韓国の中学 3 年の教科書は日本より 1 学年かそれ以上レベルが高い傾向が見られた。また、韓国の中学の最後の lesson は、中学 3 年生が日常生活で直面する事柄であり、学習者が身近に感じる内容であったが、日本の中学校レベルの学習内容を越えた高校課程の文法事項が使われていた。さらに Gunning Fog Index ではポイント 9 に達し、アメリカの中学 3 年生と同じレベルの英文となっていた。この数値だけから判断すると、学習者の年齢と英語のレベルが一致することが分かった。

一方、日本の 2012 年の中 3 の NH は readability において、母語年齢と同じレベルを示すくらい高い数値を示していた。韓国が小学校課程からの積み上げによって、readability のレベルをあげて行ったのに対し、3 年間という短期間でレベルをあげるのは、学習者にかなり負担を強いのではないかと考える。Readability は文中で使用する語彙によってかなり影響を受けることが分かっており、今後さらに詳しく研究する必要があると考える。

日本の現行の小学校課程の学習指導要領では英語は教科ではなく外国語活動であり、中学校での教科としての英語との繋がりが明らかではない。韓国の英語教育との比較からわかったように小学校からの英語教育を中学、高校へと連携させることにより、母語年齢と外国語のレベルが近くなり、語学学習における題材の幅を広げることが可能になる。今後、さらに語彙選択や題材に研究範囲を広げていきたい。

参考文献

- Fouser, Robert J. & Kiyonaga, Katsumi. (2001). A quantitative analysis of reading difficulty in Japanese and Korean junior high school English textbooks. *Annual Review of English Learning and Teaching* (JACET 九州・沖縄支部), 6, 47-60.
- Kitao, Kenji & Tanaka, Shosaku. (2009). Characteristics of Japanese junior high school English textbooks : From the viewpoint of vocabulary and readability. *Journal of Culture and Information Science* (同志社大学文化情報学会), 4(1), 1-10.
- 染谷泰正. (2009). 『オンライン版 英文語彙難易度解析プログラム』 <http://someya-net.com/wlc/Wordcount>. (2009). <http://www.wordscount.info/index.html>
- Yonaha, Keiko. (2011). A comparative analysis of English textbooks: Those used in Korean elementary and Japanese junior high schools. 『名桜大学総合研究』 18, 1-14.